

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170504047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170504047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者の気持ちを汲み取れる様に日々の関わりを大切にしている。関わりの中で気づいた事・変化があった事はすぐに申し送りや連絡ノートを活用して職員全員で情報共有すると共に、カンファレンスで話し合いケアの見直しに繋げている。  
 ○入居者が安心して生活できる様に衛生管理に取り組んでおり、衛生チェック表を活用しながらユニット内の消毒や換気・加湿を職員間で声を掛け合いながら徹底して行っている。又、ユニット内に食中毒や感染予防に関するマニュアルを掲示していつでも確認できるようにしている。  
 ○職員の知識・介護技術の向上に努めており、毎月テーマを決めて研修会を実施している。その中でも「高齢者虐待・身体拘束」「接遇」「感染症対策」については必須項目として毎年実施している。  
 ○閑静な住宅街に立地しており、施設の周辺は自然に恵まれている。季節毎にリスやキツネなどの野生動物の観察が楽しめる。裏庭の畑で入居者と一緒に野菜を作ったり、花壇で花を育てたりと自然と触れ合う機会が多くある。入居者も喜ばれている。施設内には行事などレクリエーションが楽しめる多目的室や家族などが宿泊できるゲストルームも用意している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年2月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清田区の新興住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近くには広い公園や学校、保育園などがあり、自然に恵まれた環境である。建物は広めの造りで、各ユニットの居間や食堂を中心にハの字型に居室を配置し、各部屋とも日当たりが良く、風呂やトイレも清潔で使いやすく、多目的スペースやゲストルームも配置している。地域密着型サービスを意識した理念と年度ごとの事業所目標やユニット目標を作り、職員は理念や目標を理解し、意識しながらサービス向上に取り組んでいる。また、職員同士がお互いに意見の言いやすい関係を築き、自己評価においても職員が参加して作成している。法人が行う研修や、内部の勉強会も充実しており、職員が様々な係を担当し、運営に参加している。利用者が大切にしてきた暮らしの継続の面では、馴染みの理美容院や区役所の図書館へ継続的に通えるよう支援している。介護計画の作成においてはケアプラン評価からカンファレンス、計画の見直しのプロセスに沿って、毎月の見直しが行われており、日々の記録も整備されている。外出支援の面では、散歩や買い物のほかには花見やいちご狩り、動物園、紅葉狩りなどの行事を充実させ、希望に沿った個別の外出も行っている。排泄や入浴の面でもプライバシーや本人の希望に沿った支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念はユニット内に掲示する事で職員の目に入りやすいようにしている。又、ユニット目標を作成し半年毎にカンファレンスで振り返りを行い、方向性に迷った時などに理念を掘り下げて考える事でヒントを得ている。	理念の中に「住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気の下、専門スタッフと生活する」という文言を入れ、その他に事業所やユニットの年度目標をつくり、職員間で理解・共有している。理念を事務所の前やパンフレットに掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節行事を行う際は近隣住民に参加を呼び掛けたり、日常的に散歩や買い物に出かけたり、図書館に本を借りに行き、地域の人達と交流している。又、町内のボランティア清掃などにも積極的に参加している。	利用者とともに町内会の運動会を見学したり、清掃に参加している。事業所の夕涼み会やクリスマス会に地域の方を案内する取り組みを行っているが、今年度は天候不順のため実現できなかったり、住民の参加が得られなかった。	今後とも事業所の行事に地域の方や子供たちを招待し、交流を図る意向なので、その取り組みの継続と実現を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用して町内会や地域包括、消防の方達に認知症について講話を行ったり、人材育成の貢献として実習生の受け入れもおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を作成して、二か月に一度運営推進会議開催している。その中で事業所の現状報告や町内会、地域包括、消防所と災害対策についてなど意見交換を行い事業所のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、消防署の参加を得て、感染症や災害対策、外部評価、悪徳商法などのテーマで意見交換している。家族にも案内しているが、参加は得られていない。	会議に家族の参加が得られるよう、引き続き呼びかけるとともに、参加が難しい場合は事前に運営やテーマに関する意見を聞き、会議で取り上げるなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用制度で不明な点がある際はその都度、各担当者に連絡をして相談している。又、生活保護担当者来所時には入居者の近況など報告して、協力関係築くよう努めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、市や区のグループホーム管理者会議に参加して行政担当者と情報交換をしている。介護保険の手続きや管理者交替などの際に区役所や市役所に出向いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしていくために、年に二度身体拘束についての研修会を必須項目として実施している。その中で身体拘束をする事でどのような弊害があるのかを理解し、自分達の日々のケアが身体拘束に該当していないか振り返りを行っている。又、ユニット内事務所に身体拘束禁止11項目・例外三原則の書面を掲示する事でいつでも確認できるようにすると共に、気になった事など職員同士で指摘し合える関係に努めている。	身体拘束は行われておらず、マニュアルを整備して禁止行為などについて勉強会や研修を行っており、職員の理解度も高い。玄関は夜間のみ施錠しており、出入りがあればセンサーが鳴り、分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての理解を深めるために年に二回研修会を必須項目として実施している。又、研修会の後にはカンファレンスで研修で学んだ事の振り返りを行うと共に自分達のケアが虐待に繋がらないよう業務の見直しを行っている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度などの対応に関しては管理職が行う為、他の職員は理解できていない状況である。その為、今後は研修会などを通して日常生活自立支援や成年後見制度について学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は事前に利用料や重度化の対応、またグループホームで出来る事・出来ない事を本人・家族に詳しく説明し、疑問点や要望を聞き、理解・納得をもらってから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に御意見箱を設置すると共に、担当職員が毎月近況を手紙で報告している。又、家族面会時に家族の意見・要望などを聞く機会を作る事や受信結果報告など家族へ電話連絡をする際にも合わせて話をする機会を作っている。	家族の来訪時や受診状況を知らせる際に意見を聞いており、得られた意見を連絡ノートで共有している。また、季節毎の広報誌や毎月の個別のお便りで、利用者の状況を家族に知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中で管理職は職員と意見交換の場を設けている。又、年二回管理者との個人面談を行い、その中で職員から提案があった際などはカンファレンスなどで職員全員で検討して業務改善に繋げている。	月1回のユニット会議とカンファレンスで職員が活発に意見交換を行っている。年2回、管理者と職員の個人面談も行っている。行事や防災、環境整備、広報、研修などの係を職員が分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や日頃の関わりから職員個々の長所を見つけ、良い所を伸ばしていけるような職場環境作りを心かけている。年に一度それぞれの能力や実績に応じて係や入居者の担当を決めて、やりがいや向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に合わせて法人内外の研修に参加する機会を設けている。研修後には研修報告書を提出してもらい、学んだ事をどの様に実践していくか把握できるよう取り組んでいる。新人職員には行動スケジュールを作成して、既存職員と業務内容を一緒に確認しながらトレーニングすると共に交換ノートを活用して不安解消できる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職は二か月に一度、他事業所との合同研修に参加している。事業所内の研修では全職員が参加する機会があり、自事業所の管理職含め他事業所の管理職を外部講師として招いて研修会を行う事で、他事業所との交流の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談が入った際には本人・家族に施設見学 の提案を行っている。又、本人・家族と面談を行い、 事前に十分話し合いを行い、できるかぎり細かく不安 な事や要望などを聞きだし安心して入居できるよう 努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	入居の申し込があった際、本人・家族と話し合いを 行う他、家族のみと話す機会を設ける事で本人を 前にして相談できない事など家族ならではの困って いる事・要望など聞いて信頼関係を築けるよう努め ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族と十分に情報交換を行い、優 先的に必要な支援を見極めるよう努めている。又、 条件に応じて市の介護サービスであるオムツサー ビスの提案など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮 らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりから本人の趣味趣向を探り、入居者 個々の得意分野や好きな事をもとに一緒に活動プ ログラムを考え作成している方もいる。入浴時や食 事の時などは普段とは違う一面が見られるので積 極的にコミュニケーションをとる様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本 人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えて いく関係を築いている	家族来所時に入居者と落ち着いて過ごせる環境を 提供できる様努めている。面会時には職員より本 人の近況や特変事項などの情報交換を行っている。 その他、受診結果の報告や月に一度のお手紙で情 報の共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所と の関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族・親戚・友人が面会に来所されたり、 一緒に食事やお墓参りなど外出されている。家族と 外出時には事前に電話連絡を行い、本人の様子や 内服薬の説明を行い、安全に気分転換できるよう 努めている。	複数の利用者の友人が来訪しており、一緒に花見 に行く方もいる。友人から手紙が来た際には電話を 掛け、利用者に取り次いでいる。馴染みの理美容 院や区役所の図書館に通う方がおり、職員が同行 支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	日々の関わりから利用者同士の関係を理解すると 共に、関係性に合わせた席の配置を行ったり、日々 の活動もそれぞれの個性に合わせた内容で行って いる。居室で過ごす事が多い方には定期的に様子 を見に行き、会話をするなどコミュニケーションの機 会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、その後の様子など家族と定期的に連絡を取り情報の交換を行い、お互いに協力できる所など支え合える関係作りに努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や活動を通して本人の思いを探り、その中で得た情報はその都度職員間で共有している。又、自分の思いを伝えるのが難しい入居者には表情や行動から思いを把握できるよう努めている。	半分以上の方が言葉で思いや希望を表現でき、難しい方の場合も表情やしぐさ、経験から把握している。利用開始時に作成する基本情報シート、アセスメント概要、6か月毎に更新するアセスメントシートなどで本人の情報を蓄積している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族から出来るだけ詳しくこれまでの生活歴や既往歴などの情報を聞いたり、基本情報シートを記入してもらい、職員間で情報共有している。又、新職員が入職した際は利用者それぞれの生活歴などの情報を把握する時間を設けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりからそれぞれの暮らしの現状を把握すると共に、身体面・精神面に変化があった際はその都度記録や申し送りで情報共有している。又、その情報をもとにカンファレンスで話し合い現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当職員はケアプラン評価表をもとにモニタリングを行ない、カンファレンスで評価や課題について全職員で話し合っている。サービス内容に変更があった場合は家族に説明し、家族の意見などを踏まえた上で計画作成担当者が毎月介護計画書を更新している。	介護計画を毎月見直し作成している。担当者がケアプラン評価を行い、カンファレンスで職員の意見を取りまとめて計画を更新し、本人、家族の同意を得ている。日々の介護記録も計画目標に沿った記録が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記載する中で、介護計画書に添って記載している。又、サービス内容以外に体調や言動の変化があった際や関わりの中で気づいた事をその都度記載し、特変事項は職員間で情報共有して介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊する時間などは決めておらず、可能な限り本人・家族の要望に合わせて行ってもらっている。家族面会時に持参されたおやつなどを間食として提供してもらっている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の図書館に本を借りに行ったり、行き慣れた理容院を利用している。又、訪問美容を定期的に利用して外部の人との関わりを通して地域資源との協働に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たに受診をする際には家族に報告、相談を行い希望する病院がないか確認をしてお互いに納得した上で受診先を決めている。又、体調の変化が見られた際はかかりつけ医に相談し指示やアドバイスを受けると共に個別往診日もあり、その際にも相談を行っている。	提携医療機関による月1回の全員の往診と、別に月1回の個別の往診があり、週1回の訪問看護も受けている。内科以外の通院も概ね事業所で送迎支援している。利用者毎の受診記録を作成するとともに、詳細を介護記録に記載している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に特変があった際にその都度報告・相談を行っている。又、毎週入居者の近況を記載した健康管理記録を作成すると共に、受診後には受診内容を記載した受診結果報告書をFAXしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった際は、家族を交えての病状説明を一緒に受け、本人のこれまでの状況などを医師・担当看護師と情報共有している。入院後は定期的に面会に行き状態の確認や今後の治療方針などを確認してなるべく早く退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化や終末期になった時の事業所でできる事の説明を行っている。又、実際にグループホームでの生活が困難な状態になった際には、本人・家族・協力医療機関と今後の方針について一緒に相談すると共に、カンファレンスなどで自分達にできる事などについて話合っている。	利用開始時に契約書の中の「入居者が重度化した場合の対応にかかる指針」を説明し、同意を得ている。過去に事業所での看取りは経験していないが、将来的な可能性を見据えて準備を整える方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、応急救護講習を事業所と他事業所で開催している。その際、消防を招き指導のもと訓練を行い、訓練後は質疑応答にて解らない事など確認している。又、ユニット事務所に緊急時に関するマニュアルを用意し非常時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は3回夜間想定・日中想定にて避難訓練を実施しており、災害時の行動について学んでいる。又、避難訓練を行う際は近隣住民や地域包括に参加の呼びかけを行い、参加に協力してもらい災害時の協力体制が築けるように取り組んでいる。	年3回、昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域住民の協力のもと実施しており、職員の救急救命訓練も定期的に行われている。水や食料の備蓄品を用意し、今年度は大雨災害に対する対応の話し合いを行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりからそれぞれの性格や特徴の把握に努めている。又、研修会を通して接遇について学び、言葉遣いや話し方など周りが不快にならない様に職員間で指摘しあっている。記録記載時に席を離れる際は、記録を閉じて事務所に戻すように配慮している。	内部研修で接遇について学びを深めており、礼儀正しい対応である。また、利用者一人ひとりとの信頼関係を築くことを大切にしている。名前の呼びかけは、苗字に「さん」付けである。記録類の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で活動の内容を一緒に考えたり、物を選ぶ際には、選択肢のある質問を投げかけ本人の思いや自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活リズムを尊重出来る様に、可能な限り入浴や入床・起床の時間など決めずにその都度、声掛けにて本人の希望や思いを確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人に好きな洋服を選んでもらう事や、整容時には本人の希望を確認しながらヘアスタイルを整えたり保湿クリームを使用している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は各テーブルに職員一人同席して一緒に食材や調理方法を伝えながら食事をすると共に、それぞれの食べる力に合わせてできない部分は手伝いながら本人のペースで食事ができる様に努めている。その他季節に合わせた食材を使った行事食も行っている。	食材提供会社の献立であるが、自由食の日として事業所独自のメニューも盛り込んでいる。節句などの行事食や誕生日に本人の好きな物を食べに出かけするなどしている。畑で収穫した野菜を使った料理も好評である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を記録に記載して職員間で情報共有している。水分量確保のために水分表を確認しながら一日の水分量を確保できるように努め提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態に合わせて口腔ケアを行っている。入居者の能力に合わせて、不十分な部分は介助にて行っている。又、口腔内に異常が見られる際には訪問歯科にて相談・治療を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。トイレへの誘導を行う際は他入居者から少し離れた場所でさりげなく声をかけ、自尊心に配慮している。排泄時、拒否が見られる際は職員が交代する事や時間をずらすなどの対応をしている。	飲水量も把握できるシートで全員分の排泄チェックを行っている。誘導や促しが必要な利用者への対応では、立ってもらってからさりげなく声をかけるなど、ケアを統一している。夜間は睡眠を優先してベッド上で用品を交換する場合もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として日頃より乳製品を飲んでもらう事や体操・散歩など運動の機会を作っている。又、便秘がちな入居者には訪問診療で相談し下剤の内服など行い便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際は入浴表を確認しながら週に3回入浴できるように促している。入浴する前には本人に声を掛け時間帯の希望や拒否がないか確認し、拒否がある場合には時間や曜日をずらすなどの対応をしている。夏場など汗をかけた際は入浴以外にシャワー浴なども行っている。	入浴は午前から午後にかけて毎日可能であり、週に3回入っている方も多い状況である。拒否がある場合は、職員や時間を変えて対応している。入浴剤を使用したり会話を楽しんでもらうなど、ゆったりと入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床起床の時間は入居者それぞれのペースで行っている。又、日中に眠気が強く見られる時や体調に合わせて本人と相談しながら休息を促している。夜間は二時間毎に巡回行い、体調の変化に気付く様に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬情報を個人ファイルに綴っており、いつでも確認できるようにしている。新たに薬が処方・変更になった際には、処方理由・薬の効能・副作用・期間等を連絡ノート、生活記録、管理日誌に記載し職員全員で情報の把握に努めている。内服時は飲ませ忘れや誤薬がない様に必ず二人確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃より入居者一人ひとりの趣味趣向に合わせた活動や気分転換の機会を設けている。活動内容は本人と相談しながら無理なく行える内容を一緒に考えながら散歩・書写・パズルなど行っている。その他、茶碗拭きや洗濯物畳み等それぞれ役割を持てるように支援している。			

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で毎日職員と一緒に散歩に出かけた。定期的に図書館に本を借りに行っている入居者もいる。天気の良い日などにも散歩やウッドデッキにて日光浴の提案をして希望のある入居者と出かけている。又、外出行事や家族との外食など気軽に出掛けられる環境作りに努めている。	天候の良い日は周辺の住宅地や公園を散歩しており、足を延ばして近くのお店まで行くこともある。花見や紅葉狩り、動物園見学などの外出行事のほか、利用者の生活歴や希望に応じ、個別の外出にも力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者はいないが、本人の日用品など一緒に買い物に行き、値段を見ながら馴染みの物を選んで一緒に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの方から手紙や送り物が届いた時には本人に説明して渡している。お礼の電話など職員から行う際は、電話の取次ぎを提案し会話を楽しませている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に合わせた装飾や置物を展示して、季節を感じてもらえる空間作りを行っている。装飾物は活動の時間に入居者と一緒に作成する事で楽しみながら取り組んでいる。又、時間帯や天気に合わせて照明の調整や換気を行っている。	リビングや食堂スペースは、清潔感のある明るい造りで、窓から自然の景色が見渡せる落ち着いた空間である。全員がゆったり座れるソファは色あいを工夫したり、利用者の作品や季節の装飾、娯楽用品も整っている。トイレや浴室も広く、居心地よい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれに居間のソファや座椅子、食卓など自分の居心地の良い場所で過ごされている。気の合った利用者同士で会話を楽しみながら過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者それぞれの使い慣れた物や慣れ親しんだ物を使用する事で居心地の良い環境作りを行っている。又、子供や孫の写真やペットの写真などを飾ったり、活動で作成した折り紙や絵を飾り、家族面会時に会話の話題にされている。その他、家族などが宿泊できるゲストルームも完備している。	居室内にはクローゼット型の押入れが完備され、家具やベッドなどは慣れ親しんだ物を持ってきてもらっている。テレビやテーブル、椅子、大切な仏壇などが置かれている。本好きな方が読書できる環境を整えたり、写真やカレンダーを掲示するなどして、個性に応じた過ごしやすい設えをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前には表札を掲示している。各トイレや浴室にも表札やのれんを掲示する事で場所を確認しやすい様になっている。又、ユニット内はバリアフリーになっており、廊下に手摺りを設置する事で歩きやすい環境作りに配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170504047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170504047-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいちえは住宅街の静かな場所にある。近くには大きな公園があり、散歩や気分転換に行かれる事も多い。建物の裏は雑木林となっており、自然が豊かで居間や各居室から四季を感じられるようになっている。近くにはスーパーが多く、入居者さんと買い物出にかけたり、町内会の行事に参加したり、社会資源を活用している。毎日の掃除、衛生管理の徹底を行い、清潔感を保ち、季節に合った装飾品を飾り、落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。入居者様とは日々の関わりを大切に、思いや希望を把握し、また出来る事を見極め、家事へ参加していただいたりし、その方らしい生活が出来る様心掛けている。各職員は入居者様の担当を持ち、誕生日会を予定したり、毎月直筆で生活の様子を手紙にし、御家族に送っている。年4回の広報誌も発行を行い、ユニット内には季刊誌を掲示している。御家族には生活に変化があった際、また病状の状態が変わった時などには電話連絡している。面会に来られた時には、近況を報告し、御家族も入居者様の状態を理解できるよう努めている。毎月カンファレンスでは、各職員の持ち回りで、ミニ勉強会を行い、事業所内では毎月研修会を開催している。また、法人内で、合同研修会を行い、他の事業所の意見を聞く場があったり、経験年数に応じた研修会もあり、学ぶ場を多く設け、事業所全体のスキルアップに努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は見やすいように事務所の入り口に掲示し、職員の入職時には、ケア理念を説明している。事業所目標やユニット目標を作成する時には、ケア理念を基に職員全員で作成。目標は半期で振り返りを行い、その際にケア理念を再確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板のやり取りや、町内会行事に参加している。外出時には近隣の方と挨拶を交わしている。避難訓練や事業所で行う行事などには、案内文を近隣宅に配布したり、児童会館へ掲示し、参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談があった際は、満床でも見学を受け入れ、悩みを聞いたり、専門的知識から高齢者や認知症の方の特性など、伝えている。運営推進会議では、事業所から認知症などの講話も行っている。また、実習生の受入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、町内会、地域包括、消防の方へ呼びかけ二ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。情報交換、共有の場として、年間のテーマを設定し、事業所から、認知症や感染症などの話をしている。欠席されたご家族には、議事録を郵送している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類がある際は、市役所や区役所へ直接持っていく、担当の方へ状況説明し、連携を深められる様、努めている。区役所の担当の方、認定調査の方が来所された際は、入居者様の生活の様子を見ていただく機会を設けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、事務所には身体拘束禁止11項目を掲示し、確認出来るようになっている。年二回、身体拘束についての研修会を開催し、例外3原則の確認、事例検討を行っている。職員の声掛けなどで気になった時には、職員間で話し合い、外出希望があった際は、可能な限り、付き添いを行い、ユニット入口は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のマニュアルがある、事務所には高齢者虐待定義を掲示し、確認出来るようになっている。年二回、高齢者虐待の研修会を開催し、定義の確認や事例検討を行っている。カンファレンスで不適切ケアが行われていないか振り返っている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している入居者様には管理職が対応し、密に連絡を取り合いながら連携を図っている。機会がある毎に職員へ説明を行うこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に料金表を渡し、契約時には特に料金や重度化の対応、退去時の説明を時間をかけ行い、不安や疑問に思う事を軽減している。利用料が増加する時には、運営推進会議説明を行い、個別での相談を受け付けながら一方的な通達にならないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、御家族に生活歴等の記載をしていただき、入居者様とは日々の関わりを大切に、自分の思い等を表現できない方には、表情や仕草、行動で気持ちをくみ取れる様努めている。御家族に毎月手紙で状況を報告し、来所時は近況報告を行い、意見等は、カンファレンスや連絡ノートで共有し、ケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職は職員と話しやすい雰囲気作りを心掛け、カンファレンスや日々出た意見を大切にケアや業務改善を行っている。職員は利用者様担当、係の担当を持ち、会議や打ち合わせで報告や、提案をしている。年2回、管理職との個人面談を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数や実績に応じて、研修の参加、係の担当を持ち、係ではリーダーの役割を行う事もあり、向上心がもてるようにしている。管理職は、日々現場に入り、職員の業務や悩みを把握し、気分転換が図れる様、休憩する環境も整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成のマニュアル、新人職員には1日毎の行動予定表があり、また交換ノートを活用し業務の振り返り、不安や悩みを抱え込まないようにしている。外部への研修会参加、年数に応じた研修会、毎月の事業内での研修会がある。また、毎月のカンファレンス時、各職員がミニ勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職は札幌市の会議や研修会に参加し、区内には連絡会がスタッフ研修を開催している。また、他の事業所と定期的に合同での研修会を開催し、交流や情報交換を行い、管理職は他法人と2か月に1度、研修会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、本人に困っている事、不安な事をお聞きし、顔なじみの関係作りをしている。曖昧な事は言わず出来る事、出来ない事を伝え、お聞きした話を基にアセスメント、初期プランを作成し、職員と情報の共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族にお会いし、施設概要、利用料金等の説明を時間をかけ行っている。家族が求めている事、置かれている状況を理解し、事業所でどのような対応が出来るかを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に施設概要を説明し、ご本人、御家族と話し合い、要望や思いを把握し、その時にあったサービスが提供できるよう努めている。必要に応じて、他のサービスの利用も考え、情報提供する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケア理念を基に、入居者様の尊厳を保ち、日々の関わりを大切に、入居者の思いや、要望、不安に思っている事など理解し、共有し共に支え合える関係作りを努めている。出来る事を見極め、一緒に家事や活動を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に毎月、直筆で手紙を書き、来所時には近況報告を行っている。状態が変わった際にはすぐに電話連絡をしている。来所された際に、意見や要望を聞き、ケアに反映させ、本人とゆっくり過ごせる環境作りをしている。家族の協力を得ながら、ケアする事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の使用に大きな取り決めはなく、自由に行える様にしている。以前通っていた、床屋に行ったり、入居前からのかかりつけ医への受診している。友人から荷物が届いた際、電話して話をする事もある。毎年、家族と墓参りに行かれる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりの中で、入居者様同士の関係を把握し、共有スペースの席を配慮し、気の合う入居者様で会話を楽しまれたり、家事を行っている。居室で過ごす事が多い方は、定期的にお伺いし話す機会を作ったり、集団での活動に誘い、孤立しないようしている。他のユニットと合同で行事を行う事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、これまでの生活が送れるように、生活状況や、支援内容などの情報提供を行っている。退去後に家族が来所され、今の様子や、事業所の状況をお伝えし、継続的な関わりが出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望を把握し、思いが表現できない方は、表情や行動、またご家族から話をお聞きし、把握出来るよう努めている。把握が困難な際には、曖昧なままにせず、家族等の協力を得ながら、可能限り、意向に近づけられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族に生活の情報を基本情報シートに記入してもらい、入居前の施設等からも情報もっている。会話の中から今までの生活の様子を聞き、連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活状況を把握し、生活のリズムの理解に努めている。日々の生活の様子は個人の生活記録に記載し、その方の全体像の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントは計画作成担当者が中心に、職員からも話を聞き、介護計画書を作成している。モニタリングは各担当職員が行い、管理職が確認し、カンファレンス時にケア内容の振り返りを行う。それを基に計画作成担当者が毎月、介護計画書を更新している。生活記録には、介護計画書に沿った記録を記載する様努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書を基に日々の様子や会話仕草、行動を記録している。体重やバイタル、排泄回数等も記録し、変化があった時はすぐに気づける様に、申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊に大きな取り決めはなく、要望に応じて臨機応変に対応している。可能な限り、入居者様の要望に応じて、お粥やパンなどを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーや床屋などへ外出したり、近くの公園に散歩に行く事もある。オムツサービス、訪問美容も活用している。運営推進会議で町内会や地域包括支援センター、消防と情報交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別に、本人、御家族が希望する病院へ受診する事は可能で、入居前に受診していた病院へ通院されている方もいる。通院は基本的には事業所で行っている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とは、健康管理記録を活用し、週一度の訪問診療時、入居者様の状況説明を伝えている。受診後には、受診結果をファックスし、状態や病状の変化があった際には電話連絡し、指示やアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には添書や生活歴など書面を提出し、御家族、入居者様が少しでも不安が出来るよう努めている。入院後は可能な限り面会に行き、担当医師や看護師と情報交換し、事業所で出来る対応を伝え、可能な限り早期退院できる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に、時間をかけ重度化や終末期について説明している。状態の変化などあった際には、電話連絡し、早い段階から入居者様、御家族に事業所で行える対応を伝え、主治医の意見を参考にし、今後の方針を考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は概ね年二回、応急処置、応急救護の訓練を実施している。ユニットには入居者様の緊急連絡先、緊急時の対応、職員連絡網がある。ミニ勉強会やカンファレンスで対応の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回避難訓練を行っている。消防や近隣の方が参加される事もある。消防の協力得て、消火器の使用手法や、事業所にはスプリンクラー通報装置などがある。また、日々自主点検を行い、災害について意識を高めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々関わりを持ち信頼関係を築けるよう努め、声掛けは丁寧に時には親しみをもち、選択肢をだしながら、自己決定しやすい様関わっている。記録を書く際は、周知に配慮し記録している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事を押し付けるのではなく、複数の選択肢出したり、思いや希望に沿って自己決定出来る様働きかけている。食事は可能な限り、本人の嗜好に合わせたものを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活状況を把握し、体調や状態に問題がない限り、起床、入床、休息、食事時間など、希望に沿えるよう努めている。本人の意向を確認し、介護計画書にも反映させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服は入居者様の意向を確認し、同じ服装が続かないよう配慮している。外出時やお正月など普段着る機会が少ない服を着ておしゃれを楽しんだり、床屋や訪問美容を活用し、調髪している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食材提供会社の栄養士が作成し、入居者様は食事作りや配膳、食器の片づけをしている。自由食とし季節の食材の提供や、誕生日には入居者様の食べたい物を外食で食べる事もある。畑での野菜を使い調理する事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は生活記録に記載し、水分確認表を活用し、少ない時には嗜好に合わせた飲み物を提供し、水分確保している。食事は、可能な限りその方に合った嗜好、形状に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている。義歯を使用している方は、就寝時お預かりし、消毒を行っている。口腔内に異常があった際は、協力機関の訪問歯科で直ぐに治療し、一年に一度歯科検診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、入居者様の仕草や行動などサインを見逃さず、その方の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。誘導時はさりげない声かけ、失禁が増えた方もすぐにオムツを使用せず、自尊心を傷つけないような声掛けを行い、清潔を保っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、十分な水分を摂っていただき、適度な運動を行っている。便秘気味な入居者様には、食事の際食物繊維を多く含む食材を多めに提供している。内服薬の調整など行い、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、可能な限り希望に応じ、また入浴表を活用し、週に3回は入浴できるようにしている。入浴に拒否がある方は、時間を置いてのお声かけや、同性の職員の声掛けを行っている。家族の協力を得て、入浴されている方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動量し、夕方は落ち着いた雰囲気作りをしている。日中、休息は夜間の睡眠の妨げにならない程度に休んでいただいている。夜、起きられてしまう方には、温かい物を提供し、不安な事等お聞きし、少しでも安心してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は内服説明を確認し、職員が内服日の日付を付け、薬の目的、副作用を理解できるよう努めている。内服変更や新たな薬が処方された際は、連絡ノートや、生活記録に記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりから、出来そうなこと、得意な事を探り、家事や活動に繋げている。声をかけたり、一緒に行う事で、今まで行ってきた趣味などは継続できるよう支援している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時や、希望がある時には近くの公園に出かけたり、一緒に買い物、以前通っていた床屋へ外出する事がある。花見や紅葉狩、イチゴ狩りなどの行事も多くある。夏季には、畑を手伝って頂いたり、作物の収穫をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は御家族、事業所で管理している。お金を持っていないと不安な入居者は、御家族の協力を得て、本人管理の元持っている方もいる。受診等の支払いを一緒に行うなど工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用に大きな取り決めはなく、定期的に家族に電話をしたり、友人から物が届いた時には、お手伝いをし、電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除、消毒を徹底し室温、湿度など環境整備を行っている。居間には入居者様と作成した季節の飾りを掲示し季節感を出しているオレンジ系の電気色を使い、ダウンライトで明るさを調整したり、調理の音、声の大きさ、職員の足音にも配慮している。全入居者様が入れる多目的室やゲートルームなどの設備もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関わりを理解し、食堂、居間の席は配慮している。廊下の突き当たりには、一人掛けのソファもあり、一人で静かに過ごせる環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好きな物を持ってきていただくよう、お話し、居室には写真や趣味の絵を飾り、その人らしい居室作りを心掛けている。日々の居室の掃除、週に一度のシーツ交換を行い、乾燥する季節には、居室にバスタオルなど干し、湿度を保っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはスロープ、室内はバリアフリーになっていて、手すりの設置も多い。手摺や電気スイッチは使用しやすよう、低めに設置している。スポットライトやダウンライトがあり、誘導灯にもなっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム いちえ

作成日：平成 27年 2月 27日

市町村受理日：平成 27年 2月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所主催の行事を開催したが、地域の方や子供たちとの交流が少なかった。	地域や子供との交流の機会を作る	地域を招く事業所主催の行事を開催し、近隣住民や児童会館、保育園に案内文を配布させていただき、交流も機会を作る。また、ボランティアを招いた行事を開催する。	1年
2	4	二ヶ月に一度、運営推進会議は開催したが、御家族の参加が得られなかった。	・家族の参加が得られる。 ・家族の意見を反映できる。	・開催日の案内は継続し年間テーマ設定し、会議に関心をもっていただける様に取り組む。 ・来訪時には運営推進会議の意味や議題内容を伝え意見を集い、いただいた意見を会議で話し合い、議事録に載せ、関心を持っていただく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。